



2026 年 FD セミナー（PICD）に参加して

2026 年 9 月 12 日～13 日 | フィリピン・マニラ

日本部会（JICD） 鈴木仙一・秋山逸馬・森永宏喜

参加報告 | 秋山逸馬

9 月 12 日～13 日までフィリピン部会の FD セミナー（Faculty Development Seminar）に参加してきました。今年は「Giving Back to the Community」というテーマで「公衆（口腔）衛生・予防歯学、公衆衛生管理、公衆口腔衛生プログラム」にフォーカスを当てる趣向で行われました。日本部会（JICD）からは演者として鈴木仙一フェロー・国際交流委員として森永宏喜常任理事と私の 3 名で参加してきました。一行はセミナー前日にマニラ入りをし、マニラ市内の歯科クリニックを見学する予定を立て移動や共同活動協力を GC Asia 及び GC Philippines に例年通り依頼しました。

空港到着後に先ず立寄ったのは、セミナー会場となった「UNILAB」という会社の施設でした。UNILAB は創業時にはラテックスグローブや口腔衛生用品等も扱う会社だったとのことですが、現在ではフィリピンの大手製薬企業となっていて、本社ビルの一部を学術セミナーや企業ミーティング、更に住民も使える集会所として使用可能にしてあり本年はフィリピン部会（PICD）のメインスポンサーにもなっている企業です。

そこで会場の下見と会社見学を行った後に、PICD 会長である Dr. Walter U Sy のクリニックを見学させて頂きました。クリニックは Jollibee Plaza ビルの中にあり、Dr. Wally に聞くと Jollibee 幹部はじめ多くのビジネスマンが通院されているとの事でした。「Jollibee」は南アジア地域ではマクドナルドやバーガーキングを凌駕するフィリピン資本のファーストフード企業です。診療台は 7 台あり各診療台はセミパテーション化されてゆったりとした空間が保たれており、院内ラボを備え Dr. Wally 会長の親族の歯科医師数名が勤務するクリニックでした。また、Dr. Wally の趣味は油絵を描くことで、作品も販売される程の完成度で院内にもお気に入りの絵画が何枚も飾られていました（Fig.1）。



Fig.1 クリニックに飾られた油絵

セミナー当日の講演

セミナー当日は日曜日という事、会場となったオルティガス地区はビジネス街という事もあり空は青く車の喧騒などもない晴れやかな朝（Fig.2）でした。鈴木仙一フェローは「Preventing Oral Frailty Through Implant Therapy」という演題で講演を行いました（Fig.3）。当初は 50 分という予定でしたが、Oral Frailty という概念がフィリピンでは浸透が不十分であるのか当初の予定を延長し PICD 会員からの質疑応答も含めると 100 分をこえる口演となりました（Fig.4）。



Fig.2 セミナー当日のオルティガス地区。

製薬会社である UNILAB は、高層ビルが林立する
ビジネス街に広大な敷地を有する



Fig.3 会場のプログラム案内と鈴木フェロー

特に「Ebina Study」で示されたオーラルフレイル改善による顕著な医療費の削減は、歯科医師が地域社会や患者の生活に多大な還元をするという事を示しており集まった PICD 会員に印象深い講演・実証的なデータを示すことになりました（Fig.5）。



Fig.4 鈴木フェローのオーラルフレイルに関する講演



Fig.5 講演後の記念撮影。

Walter 会長と鈴木フェロー、3 人の女性は教授や学部長

KICD フェローの講演と交流

続く韓国部会（KICD）からは Dr. Hyewon Lee フェローが「Global Oral Health Agenda」という講義を行いました（Fig.6）。講演内容としてはケニアでの妊婦と子供の口腔衛生活動についての講義でしたが、私が感心したのは個人的な会談で Dr. Hyewon は 2026 年の KICD ニューフェローであり、かつ韓国での歯科医師免許を持っていないということでした。この先生の経歴は 12 歳から渡米しメリーランド大学歯学部を卒業しハーバード大学で修士号、ジョンズ・ホプキンス大学で博士号を取得した後、「US, Kenya」という機関で働いていたとのことでした。その後、2021 年結婚に伴い韓国に帰国して現在はソウル大学歯学部で助教授兼「Global Maternal and Child Oral Health Center (Seoul National University)」の主任を担う傍ら、御自身の臨床フィールドワークをケニアで行っているとのことでした。

Dr. Hyewon の講演でも話されていましたが「国際的に活躍する事であったり話が通じにくい患者に寄り添うため」には、状況を見つつバランスを保つのが一番と話されていたのが印象深く、海外で働く私自身も日本で学会に参加したり、日本人の先生方の講演を聞く際に「深く考察されているところもあるが周りが視れていない様な？」と思う機会が多く Dr. Hyewon と知り合えたのは貴重な経験となりました（Fig.6）。



Fig.6 Dr. Hyewon Lee (KICD) による「Global Oral Health Agenda」の講演

PICD の取り組みと会場での交流

2つの講演が終わったところで昼休憩と時間変更が行われましたが、期せずして開催当日はPICD会長のDr. Wallyの誕生日でした（Fig.7）ので、皆で会長を祝福しました。ランチタイムにはフィリピンの多くの先生方と交流・会談をしましたが、JICD一行のフライトや交通事情を考えると時間的には少し早かったのですが、後ろ髪を引かれる思いで会場を後にしました。



Fig.7 Wally 会長の誕生日を祝う場面

因みに PICD からの講演は Dr. Manuel V. Vallesteros フェローで「Ngiting 7020」という講演でした。Dr. Wally 会長からの聞き伝えによると、フィリピン保健省（DOH）が主導する運動で別名「Oplan Iwas Bungal」といわれています。DOH は「歯の喪失」は老化に起因するものではなく生活習慣と歯科医によるケアによって歯の喪失を予防できるとフィリピン国民に推奨しているそうです。そこで生後 1000 日間の「Life-Stage Approach」を正しく親に教育指導する事と、家族中心の健康維持「Pamilya, Una Kong Dentist (Family, My first Dentist)」を具体化すべく大学教育や臨床で如何指導するかという講演だったと聞きました。勿論、「Ngiting 7020」は日本の「8020 運動」を手本としていて日本人歯科医にとっては喜ばしい動向と思われます（Fig.8）。



Fig.8 会場での交流・記念撮影

左から GC Asia の黒田氏、President-elect の Dr. Aimee no Yang Co、Immdiate Past President の Dr. Clemente, J、秋山、森永、鈴木

協力企業への謝意

最後になりますが、今年の FD セミナーでは UNILAB の会場を使用していたため、会場内での販売や宣伝活動が禁止されていましたが、PICD の配慮（Fig.9）で GC の製品をラッキードローの景品として 20 名以上の PICD 会員に渡すことができた（Fig.10）とのことで、共同セミナーにご尽力いただいた GC Asia 及び GC Philippines にもよい機会になったのではないかと考えています。



Fig.9 GC 製品のラッキードロー
右は GC Asia 所属、歯科医師の Dr. Rob Abrenica



Fig.10 景品を手にした参加者。
右は President-elect の Dr. Aimee no Yang Co

（秋山逸馬 記）

国際交流を通じて | 森永宏喜

今回は国際交流委員会の常任理事を拝命しての初仕事でした。またフィリピンは初めて訪問する国ということもあり、幾分緊張した心持ちでの渡航となりました。しかし開催前日の会場視察の場に、東京の認証式でお目にかかっている前 PICD 会長・Dr. Clemente, J が出迎えて下さり、こちらで日本でも面識のある現会長の Dr. Walter U Sy のクリニックを見学させて頂くころには、この訪問を楽しめる気持ちになっておりました。

プログラムの詳細は秋山フェローの報告に譲りますが、印象に残ったのはスカラシップ（奨学金）制度の充実です。一定の条件を満たした学生に 50,000 ペソ（日本円で約 15 万円、秋山フェローによれば現地の価値で 50 万円ほどとのこと）を支給するものです。数人の学生が対象となっていました。注目に値するのは、この制度がスポンサーたちからの単なる寄付で賄われているわけではなく、チャリティー目的のセミナーやハンズオンを開催することで資金を得ているということでした。これは私たち日本部会にとって一つの参考になるのではないかと感じました。

「マニラは本当に大都会だよ」と事前に聞いてはいましたが、レジデンスやオフィスの摩天楼が林立し、さらに無数の高層ビルが建築中の有様は、フィリピンがまさに「勢いのある国」ということを実感させてくれるものでした。もちろん、その一方で東南アジアらしい光景や、フィリピン社会の多様性を感じさせる状況も随所でみることができ、今回の旅の印象を深くしてくれたと思います。「アジアは広い」ということを改めて感じる訪問となりました。

空港に降り立ってから帰路に就くまでの全行程で、GC Asia の黒田氏、Dr. Rob ほかの皆様には大変お世話になりました。この場を借りて御礼申し上げます。

（森永宏喜 記）

講演を終えて | 鈴木仙一

2026 年度 フィリピン ICD Faculty Development Program にて講演いたしました。

今回はこのような機会を頂きありがとうございました。国際交流委員会森永宏喜常任理事と秋山逸馬副委員長のご支援により、つつがなく終えることが出来ました。

とても厳かなオープニングセレモニーの後、私の講演が始まり、まずどれくらいの方がインプラント治療を行っているのかを会場に問いましたら、1 割もいなかったのもオーラルフレイル中心の講演を行いました。しかしながら、オーラルフレイルを知っている方は 1 人もいませんでした。

約 10 年前私が海老名市歯科医師会会長の時、柏スタディーに続き海老名スタディーを行いました。海老名市歯科医師会の 25 の歯科医療機関にて、メンテナンスに通っている 65 歳以上の海老名市民 848 人を対象として、舌圧計、グルコセンサー、同じ体組成計を用いてオーラルフレイル検査を行った結果 25.4%の人がオーラルフレイルに該当するという結果が出ました。

その該当者たちに適切なトレーニングをしたら 56.1%の方がオーラルフレイルから脱却しました。年だから仕方ないではなく、可逆性に回復できる段階だということがわかりました。

2019 年 4 月 1 日には、世界初の本格的なオーラルフレイル健診を海老名市に於いて開始しました。2019 年 5 月 18 日には、日本経済新聞にも海老名は舌圧を改善していると記事にもなりました。この経緯や結果また、考察を解説、講演した結果、秋山フェローが記載されている通り質問が多く、座長が許したので大幅に時間オーバーとなりました。

講演後、Walter 会長が会員からあのパワーポイントをもらってくださいという無茶な願いを受けましたが、個人使用ならば、ということで資料をお渡ししました。

会場についた瞬間、前会長のクレメンテ先生がお声がけしてくださり、彼とは他の学会にてお会いしていたのでとても親密な会合となりました。

感銘したのは森永常任理事のおっしゃる通り、企業に頼ることなく会員の力でフェローシップをたくさんの方に与えているところに驚きました。

また、少し残念なことは、急な申し入れだったので仕方がないと思いますが、より多くの日本会員が参加してくれていればありがたかったかなあというところです。

弾丸ツアーでしたがとても実りある時間でした。ありがとうございました。

（鈴木仙一 記）